

スラゴンホームステイの宿泊客

2013.1.2

スラゴンには以前にも増して世界中から多くのゲストが訪れるようになったそうです。12/21 にチェックインして大晦日までの 10 日あまりの間にいろいろな方に出会いました。

最初に、オランダに住む男性とブラジルに住む女性の遠距離恋愛中と思われるカップルとお会いしました。タイに住む夫婦とその子供たちにも会いました。ご主人は日本人、奥さんはボルネオ島北端の町クダットに多くいるルングス族です。ラナウの近くのケニンガウにある奥さんの実家に里帰りに来たついでに立ち寄ったということでした。一緒に紅白歌合戦を観ました。フィリピンから来た夫婦と4人の子供の家族にも会いました。ご主人や子供たちが仕事や勉強で日本と関わりを持ったことがあるそうで親日家のように見受けました。

ドイツ人の2人兄弟に会いました。お兄さんはドイツに住んでおり、弟さんはニュージーランドに住んでいるそうです。明日(12/29)、弟さんがローカルの女性と婚約するためにやって来たということでした。

サバ州には、オープンハウスという習慣があります。オープンハウスとは、いろいろな人を自宅に招きご馳走を振舞う行為を言い、クリスチャンはクリスマスシーズンに、ムスリムはラマダン(断食)明けのハリラヤに、華人は中国正月に、カダザンドスン族はカアマトン(収穫祭)に実施します。

たまたま、パトリック氏(ラナウのゴルフ場の社長)のオープンハウスに招待されていたので 12/29 お宅に伺いました。驚いたことに、その場で例のドイツ人とローカル女性の婚約式が行われました。ローカル女性は、パトリック氏のお嬢さんだったのです。彼女がニュージーランドで滞在中に知り合ったということでした。8月下旬にラナウで結婚式を挙げるので教会を予約したということでした。そのときにはドイツから両親や姉妹もやって来るということでした。出席するよう求められましたが、8月中旬に帰国する航空券を予約済みであり、残念ながらできません。

その他、北京から来た人や会話をしなかったのが何処から来られたのか分からない欧米人およびコタキナバルやクアラルンプール、クチンなどから来たマレー人を多く見かけました。年明けにはチェコスロバキアからのカップルが訪れました。

若いカップルの中にはキナバル山に登頂することを目的にした人もいます。

殆どの人は、AGODA(ネット上のホテル予約代理店)を通して予約したそうです。スラゴンがAGODAを介して予約できるようになってから来客者の国籍と数が増えてきました。

例年のことですが、1月の後半から2月に掛けて避寒目的で訪れる日本人が増えます。ダブルブッキングを未然に防ぐため私が承知している日本人の宿泊スケジュールを再確認しました。

世界各国からやって来る人々と出会い、会話することができるのは、スラゴンホームステイに滞在する楽しみの一つです。ここにはホテルライフでは味わえないアトホームな雰囲気があり、共有のオープンスペースでお互いに寛ぐことができるので、会話が弾むのだと思います。